

うちなーぐち

かわら版

沖縄語を話す会会報

第22号

2017年7月1日発行

会長 山路 安清

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-kuni@nifty.com 國吉 真正



富盛石彫り大獅子（県指定有形民俗文化財）1689年建立 八重瀬町富盛

創立30周年記念号

「おきなわご沖縄語を話す会はなかい」月に二回ちち集またけーんあちるぬ勉強会、びんちよーい品川しながわぬ大崎おーさきをて

- ・いちむしど暮らし-----山路安清
- ・たんめー、んめーこーこ孝行-----新垣清松
- ・昔んかしえ一、ましやたん-----石原末子
- ・御取うとむい持ち：しなはたらさきぬあーんでぬ働はたらち-----久手堅憲珍
- ・童わらびやたる頃くるぬ思事うむくと（2）にー-----保坂和子
- ・会報に出てきた語句の説明
- ・事務局から

ホームページ
沖縄語教育支援文庫

<http://www.wvq.jp/p/>
<http://www.wvq.jp/q/>

いちむしど暮らし

「那覇言葉」

会長 山路安清(旧姓:徳田)(品川区)

しよーわ はじ ぐる まー やー いるいる
昭和ぬ始め頃まで、何処ぬ家をてん、色々ぬい
ちむしど、まじゅん暮らしよーいびーたん。
うぬ頃、一番恐るさたしえー、ハブど、んーかじや
いびーたん。

ハボ一、今ん、県庁ぬ衛生課んじ、一匹五千円位
し買やびーん。県庁や、うりっし毒げーし(血清)
作とーやびーん。

んーかじえー、家ぬ中んかい居いびーたん。夜寝ん
とーる時、天井から落て来ゆーる事ぬあいびーた
ん。うぬんーかじえー、ハブどまじゅん頭んかい毒持
つちよーぐど、棒さーにすぐて、殺ちよーいびーたん。
家ぬ中んかいや、うぬ他系んちゆ(鼠)、やーるー
(守宮)、がじゃん(蚊)、蠅、ぬがく(米虫)ぬ居
いびーたん。

蜘蛛、ふーらー(ゴキブリ)ん居て、大和ぬ物やか
ー、まぎさいびーたん。うぬふーらーや、家ぬ中ん
じ、飛どーいびーたん。又蜘蛛や、大っ人ぬ手ぬあ
たいまぎーやて、殺ちえー成らんで、言らとーいび
ーたん。

庭んかいや、はーべーるー(蝶)、秋津、てん蟹
(陸蟹)、ふくたー虫(蓑虫)、蚯蚓、ちんなん
(蝸牛)ぬ居て、童ん達や、取つて嬉さそーいび
ーたん。

あたびー(蛙)、田魚(鮒)、くー魚(鯉)、鰻、
ちくら(ぼら)、くちみちやー、がさみ、とんとん
みー(跳びはぜ)や、田ぶつふーどか川原んじ、取や
びーたん。鯉、蛸、ぐるくん(高砂)や、大事な旨
さ物やいびーん。

風吹ち前ねー、久茂地川んかい、せーぶー(小海老)
ぬ多く居て、ばーき小っし掬て、油揚ぎーし、食ど
ーいびーたん。

うぬ頃、なんみー(波の上ビーチ)んじえー、いーら
ー(くらげ)ぬ居て、刺さったる事ぬあいびーたしが、
大事やいびーたん。

やしち なーが からしやー かな
屋敷ぬ中んかい貸家ぬあぐど、必じ、かー(井
戸)ぬあいびーたん。うぬかーぬ周いんかい、たうち
ー(闘鶏)、家鴨ぬふじよーそーいびーたん。家ぬ
くしーんかいや、蜂ぬ居て、恐るさいびーたん。
学校ぬ庭んかい猿ど兔ちかなとーいびーたん。
猿や、わちゃくらつて、兔一、愛ささつとーい
びーたん。

そーみなー(目白)や、ガジマル木んじ、ぐー(籠)
し取つて、くらー小(雀)や、空気銃どか護謄ふん
(ぱちんこ)し、あーちきとーやびーたん。

終わい



ほうおうぼく

たんめー、んめー孝行

新垣清松(横浜市)

我んねー、大正十四年ペルーぬりマ市なかいあ
るワンカベリカをて、生まりやびたん。

童名や、エンリーケンて言ちよーいびーたん。

八ちぬ歳に、我ん男ぬ親ど女ぬ親ぬ生まり島、
沖縄かい帰て来やーびたん。

親ぬ達生まり島一、中頭郡美里村字泡瀬「今ぬ
沖縄市泡瀬」やいびーん。

泡瀬一、人口5千人ぬ村、あん言しやかー、商工業
ぬ繁盛そーる町やいびーたん。

明治四年生まりぬたんめー、んめーや、あー、ふー
じゃー、鶏飼らとーいびーたん。

我んねー、ペルーをてー、町なかい暮らちよーいび
 ーたん。あんすくと、泡瀬をてぬ暮らしえー、諸、珍
 しー物やいびーたん。
 いふどゆーどさる。泡瀬ぬ町ぬ暮らしんかい慣りや
 びたん。

我んねー、日本語ぬ不足そーたくど、なー一回



清文（1歳）光子（4歳）清松（5歳）
 （1930年 ペルー）

一年生から始みらねー成いびらんたん。

うぬ学校や、びーくる千人ぬ生徒ぬ居いびーたん。
 また、大方ぬ生徒ぬ達や、衣着ち、空ふさっし学校歩
 ちよーいびーたん。あんすくと、我ん一人ー、靴ん
 くどーくと、他ぬ童ん達とー、いっぺー変わとー
 る様子やいびーたん。

リマをてー、当た前ぬ「鳥打帽子」、うりから、
 縦綾ぬ半袖シャツ、半ズボン着ち、「革靴」くどー
 いびーたん。中から着ちよーる物やか他ー、諸、余
 所国から入っち来よーる物やいびーたくど、生徒ぬ
 達から羨まさせ、見だつとてーる風情やい
 びーたん。

我ん女ぬ親ー、沖縄をて生まりたる十七成いる
 心みー添ーて、ペルーかい戻やびたん。

我んねー、三月ぬ間なかい女ぬ親から日本語ーあ
 らん、沖縄口しかつど覺らさつて無ーやびらん。

我んねー、スペイン語びけーんと分かいびーたる。

なー、たんめー、んめーど御話すしえー、沖縄口あ

らんだれー成いびらんたん。

我つ達や、親から送らつて来ゆーる錢、うりから、
 家賃、どーくる作てーるむじゅくいさーに裕福な暮
 らし方そーいびーたん。

やいびーしが、あんそーる内に、たんめー、んめー
 や、歳取て行ちゆくと、童ん達手掛からんだれー
 成いびらんたん。思んちやきらん事んでーや、ペル
 ーなかい居る親ー、夢にん見だんたる筈やいびーん。

曉、たんめー、んめーが起きみしえーる前に、
 我んねー、毎日、残い物熱らち食て、学校かい行
 じよーいびーたん。

三年生成たる頃、たんめーや、何ぬ病気がやら分
 からんしが、うちくたする如成いびたん。

たんめー毎日ぬ業やたる焚物割いしえー、我んが、
 見ー考ーする如成いびたん。

畑仕事ー、日傭するっ人んかい一日に賄一付きて、
 五十錢っし頼まびたん。

我んねー、芋掘たい、野菜んでー取やびたん。

日傭するっ人んかえー、畑耕ち、肥入つて、種降る
 すしんでー頼まびたん。

ある日ぬ事やいびーん。たんめー望みやいびーし
 が、一分刈いするバリカンさーに断髪っし、面ぬま
 ぐい伸ばさがちー髭剃て取らさびたん。

たんめーや、鏡んかい映とーるどーぬ面見ち、いふ
 小血ぬ出じとーる面撫てやがちー目一笑っし、
 幸ーやんねーさびたん。

たんめーや、酒ん好ちやい、三線弾ち、どーぬ益し
 やる如っし、肝んやーやど成いる暮らし方そーみ
 しえーびーたん。

家賃ぬ一分ー、酒代んかい代わゆしが、みつふしこ
 ー無ーやびらんたん。

又、んめーや、わびーのーいさん如、ちやー、ゆちゆ
 ちーどしみそーち、大生まりそーるっ人やみしえーび
 ーたん。

んめーや、孫ぬ達習しにちーん氣掛かいぬあ
 て、「家庭訪問」んて言ち、先生が家んかいめんし

えーいねー、先生ぬ御話良一聞ちよーみしえーびー
たん。

夕飯んかいあーぬ肉ぬ入っちょーいねー、くれー、先
生んかい褒みらってーさやーんち分かやびたん。

んめーや、リユーマチぬ持ちえーぬあて、うちくた
する事ぬあいびーたん。あんすくと、わんねー、「便
器」ぬ汚り物捨てて、あんしから洗て、元んかい戻ち
置ちやびたん。胴動かすしぬ、どー苦さそーみしえ
ーるんめーんかえー、うぬ「便器」ー、救い成とーて
ーる風情やいびーたん。

あーんかいぬ物ー、我んが食ーする如成いびたん。
正月あーやくと、肥ーらさねー成いびらんたん。

あー殺さーや、たんめーどしぬめんしえーびーたしが、
うん人が、殺ち、塩漬きっし、まぎ瓶なかい入って、
溜ぶて、半年余い続きて食どーいびーたん。

ちねーをて、あー殺すしえー、法度さつとーたしが、
包み隠さん如、殺ちよーいびーたん。

んめー只ーちぬ薬ー、松ぬ葉碎ちから、絞て、
うぬ汁んかいまーす小添てーる物やいびーたん。

うれー、かたさる青色ぬ酸一物ぬ汁やいびーたん。

うぬ薬ー、詮ぬあてーる風情やいびーん。いふど

ゆーどさる。うぬんめーや、はしつと成いびたん。

いー薬ー、苦さんて言つとーしが、本当やいびー
さ。

わ 我んねー、中 学校ぬ試験受きーんち、やつどかつ
と真実に肝掛きて勉強さびたん。

弁当んかえー、卵ぬ一ち入りりやびたん。

うれー、本当や、んめーたましぬ物どやいびーる。

うり我ん弁当なかい入ってーる筋やいびーん。

んめーや、ちゃー、一合瓶ぬ牛ぬ乳ど卵うさがとー
みしえーびーたん。

知り合ーぬ、余所国かい行じ、銭儲きーるちねー
ぬ事やいびーん。

わらび 童ん達や、ふーふじぬ家かい帰てっ来、年寄いぬ
側をて、ふどぬて、大学卒業っし、ハワイぬ親ぬ
にーんかい戻やびたん。あんし、残さつたるうぬんめ

ーや、しからーさる思ーっし此ぬ世失みしえーびた
ん。

なー、此ぬ頃一、どー一人暮らしっし、誰んかい
ん見ー守だらん如、此ぬ世失みしえーるっ人んめん
しえーびーしが、昔一、「医療・介護保険制度」、
うりから、「特別養護老人ホーム、私設老人ホーム居
宅介護支援事業」んでーや、無ーやびらんたん。無情
な世やいびーてーさ。

う
終わい



東京スカイツリー

んかしえ

昔一、ましやたん

石原末子（八重瀬町）

なま がっこー しんしーたーなんじ でーじ ふーじ
今ぬ学校ぬ先生達難儀くんじえー、大事やる風情
やん。うぬ事聞ちゆるかーじ、我んが先生やたる時分
一、灘安さる世やてーさやーんて思いん。

しんしー 先生ストレスぬまぎさる事一、誰がん分かいるむ
のーあらん。うぬ為枯らしぬあるっ人ぬど、分か
いんて思いん。

わらべ い ンじゆ は がっこー
童一、生ちち、動ちゃー走つたいすくと、学校、
又、うりかーをて、何がすら分らん。

わらび がくりち う ンね わっ しんしー
童ぬ字力ぬ落ててん、行ーぬ悪さてん、先生ぬど、
んじゆんじゆーど咎みらりーしえー、逃ーらん。

か 変わて、モンスターピアレンツんて言らつとーる親ぬ
ちゃーえーて、達相手すしえー、うけーゆん。

また か 変わて、わか しんしーたー
又、変わて、若さる先生達や、うぬモンスターピア
レンツんかえー、立ち向かゆーさん。

わらび ちゃー
童ん達や、いふいふ小触たるうっぴしん、先生んかい
「すぐらったん」て言ち、親んかいもーさぎすんてぬ
くど 事やしが、うぬ親ぬど大事やる。校長やあらん如、
し 直ぐ、教育委員会んかい告ぎーる為様やん。

うぬ如ーる親ぬ故に、肝ぬ病て、仕事欠ぎーる先生ぬ
うふ 多さしえー、明らかやん。

んかし わ しんしー
昔、我んが先生やるまんぐろー、「家庭訪問」
て言ち、生徒ぬ家訪にーる時に、親一、「うんじゆが
あ 言ーしみそーちん聞かんだいねー、手じくんさーにす
ぐて呉みそーれー。鞭さーにすぐてん済まびーさ。」
んて言らったるむんやん。

わ 我んにん「熱血教師」んて言ち、意地ぬあて、勢い
ぬ 強さる先生ぬ なかい、入りらりーるあたぬ
者ーあらんしが、面ほーち取らちやい、手さーにち
びすぐたるむんやん。

あんやたしが、手じくんさーにすくいしえー、さんた
ん。(何がどんやれー、中指ぬ病むくど)

なま ゆー
今ぬ世やれー、「暴力教師」んて言ち、乱り者先生ん
て言らつて、なー、訴ーらつとーてーるはじんて、思
いん。

わ 我んねー、生徒んかえー、学力やか「心の教育」
んて言ち、物習ーし、言ー習ーしぬど、いっぺー肝要
な事やんて思て、習ーちゃん。

なまぐる な 今頃成てから、上上ぬっ人ぬ達ん目覚まち、「心の
教育・人間教育」んて言ち、あびとーん。

わ 我んねー、昔ん人「化石人間」やて、うぬ頃一、
ましやたっさーんち、ゆくーゆくー思いる今日此ぬ頃
やん。

う
終わい



うと む はたら
御取い持ち：しなさきぬあるあーんでーぬ働ち

久手堅憲珍（豊見城市）

わ 我んねー、今、「社会福祉法人志紋福祉会障害者支
援施設『みなみの里』ぬ理事どっし関わとーん。

く 此ぬ会ぬ根元なかいある考ーや、一ち目、「愛の
サービスの実践」て言ち、愛さるあーんでーぬ行ー。
たーみー 「笑顔のサービスの実践」て言ち、笑ー顔さ
ーにあーんでーぬ行ー。うりから、三ち目や、「優
しさのサービスの実践」て言ち、肝清らさるあーんで
ーぬ行ー。此ぬ三ちやん。

へーせーにじゆーはちにんど
平成二十八年年度ぬうやぎ（支援）ぬ「基本方針」
て言ち、根元成いる進て行ちゆる道やしが、うぬ一ち
なかい『『みなみの里』ぬっ人ぬ達ど、世間ぬっ人ぬ
達ど、ふらいがちー、世間ぬっ人ぬ達ど、『みなみ
の里』ぬっ人ぬ達や、互ーにっ人ぬ心持ちど、な
めーめーたちぬゆわ 一銘銘ぬ立場良一分かいる如努みゆん。」て言しがあ
ん。

めーにんるくちちにじゆーさんにち
毎年6月23日にある「慰霊の日」んて言ち、
まーしみそーちやるっ人ぬ魂 慰みーる日ぬあし
が、うぬ日に、「愛と平和を考える奉仕活動」んて言ち、
かな 愛さすしど、戦ぬ無ーらん灘安さる世考ーゆるあ
ーんでーぬ働ちどっし、平和行進団ぬっ人ぬ達ん
かい『『みなみの里』ぬ園生(七十人)ど、職員(五
じゆーにん 十人)ぬ、まじゆーんさーに冷じゆるさる御茶、飴
小、うりから、黒砂糖んでー、配とーん。湯ど茶さ
ーに取い持ち、しなさきぬ働ち、言ーどんしえー、
「御取い持ち」行とーん。

ん 去じやる正月二十一日ねー、平成二十九年新年
ぬ会(生年祝)ぬ催さったん。職員、園生ぬ、ぬ
ざぬあて、うりなかい、「保護者」んて言ち、園生か
げーゆるっ人ぬ達にゆつて、ギター弾ちやがちー、
かた 語ゆしんあたん。うぬ上に、村々ぬ小学校生ど、中
がっこしー 学校生にゆつて、「八重山古典民謡」ぬ唄三線、うり
から、踊いぬ披露んあたん。

う プログラムぬ終わいなかえー、職員、園生、保護者、

あんし、又、村々ぬ御衆様ん諸まじゅーん成て、か
ちゃーしー舞て華かちゃん。な、新年ぬ会ん
かい似合て、村々ぬっ人ぬ達ん互ーに交わて、い
っぺーちむえぬある和合和談成たん。

我んねー、理事会、うりから、評議員でどっし、
『みなみの里』訪にーるうじゅみぬあしが、んまんか
い行ちゆるかーじ、園生や、笑かんで、迎て呉ゆ
ん。

スリッパ揃一ち、会議室んかい案内し呉ゆん。

園生達や、皆、どくつと成て、慣りとーん。

うり見ち、肝打たりしえー、職員ぬ、肝じゅりー
っし、愛さすしど、笑顔、柔てーん小園生ど関
わとーる為やん。又、うれー、あーんでぬ働ちぬ御
賜みしえー物やんで思とーん。

うぬ『みなみの里』一、今年一、建ちちから三十
年迎ゆる事成たん。あんし、年々あーんでぬ数、
うりから、実ぬ持上がて、ばー心地ぬ宜さい、いっ
ぺー優りーとーる『みなみの里』成とーん。

役職員はじめ、うぬ『みなみの里』んかい入っち
来ゆるっ人と、うぬ保護者、うりから、村々ぬっ人
ぬ達、又、関係機関ぬ取い受きと、御習一、賜やが
ち一、皆まじゅーん命限りうみはまて、行かんどん
あれー成らんで、改まて、かんし思ゆん。

「社会福祉法人志紋福祉会障害者支援施設『みなみ
の里』ぬ根元なかいある考と、進て行ちゆる道ぬ
行んかい向きて、差し支持っちょーるっ人と、
持たん人ぬ、「互に暮らち、互に生ち行ちゆー
する、又、バリアフリーぬ世ぬ中」目当てに、うぬ『み
なみの里』使ゆるっ人と、うぬ家人数ぬ要り様んか
い応じらりーる「心(肝心、ばーまーるぬ心)ぬ
あーんで」うさぎしえー、無一ぬ為ちえー成らん。
うぬ事行いる為に、役職員どっし、此りから後ん、
情愛持っち、うぬ働ち見守て行ち欲さん。

終わい

(社会福祉法人志紋福祉会障害者支援施設みなみの里・理事)



首里金城跡石畳道

童やたる頃ぬ思事(2)

保坂和子(世田谷区)

左ぬ道、アサトぬ小路ぬ左むて、二高女ぬ
運動場成とーいびーたん。「山口家」ぬ奥ぬ庭から、
うぬ運動場見じゆる事ぬ成いびたん。運動会んで
一ぬあいねー、次男やちー(一中生)と、やしちぬ
い超て、見物さるむんやいびーん。女学生達が、弓
ぬ矢持っちょーる姿一、いっぺーそーらしぎさんあ
い、並みぬ物一あらん如、見一やびたん。又、うぬ女
学生達や、揃て、トンネルから出じて来やんで思や
びーん。

やちー達や、良一、家小作て遊どーいびーたし
が、うぬ家小なかい入る為ねー、一銭持っち来
んだれー、入りらんで言らとーいびーたん。
あんすくと、我んねー、銭ばてっ来、うり払て、入
りりりやびたん。

学校ぬ裏ぬ門から右んかい行ちーねー、まぎ銅
像ぬあて、うれー、「袋中上人碑」んて言ちよーい
びーん。

うぬ先ぬ角一、県病院ぬ裏ぬ門ぬ、あいびーたん。

うぬ門や、「死に門」んて呼ばとーいびーたん。

又、うぬ道ぬたんかーなかい司令部ぬあいびーたん。

うぬ道一、高さる石囲いんかい囲まって、松ぬ木
ぬ植らとーいびーたん。

時々、6センチから7センチある真っ黒そーる毛虫
ぬ、這とーし見じゃびたん。今にん落てて来一ぬ
がや一んち、恐るさ思一っし走い越一たるむんやいび

ーん。

うぬ道、一時歩ちーねー、左むてなかい我っ達家
「仲本」ぬ、あいびーたん。

大風ぬ後ぬ道一、石ぬ真っ白ー成て、目光らさ
るあたひ清らさるむんやんで思やびたん。

たんかーや、唐手ぬ先生家やいびーしが、夏成いね
ー、うぬ家ぬ垣辺一、じーなーぬ良ー飛どーいびー
たん。扇持ち追ー付きて、取て、うぬじーなーや、
蚊帳ぬ中なかい入って、電気一、ちゃーち、楽しま
びたん。

家ぬたんかーや、盛小成て、んまなかえ一、梯梧ぬ
木ぬあて、うぬ花ぬ真っ赤咲ちよーいびーたん。ん
まをて、「昆虫」取たいさびたん。又、空墓恐るさ思
ーっし、ぬばがたいさびたん。

夏休みぬ、「昆虫」取る為に、網さーに作て
ーる袋持ち、奥山公園、泊まで、どー一人行ち
やびたしが、何ん恐るこー無ーやびらんたん。

やいびーしが、蜂んかい刺さって、いっぺー病だる
事思出じゃさびーん。

あささーんで一、秋津や、やんむち、唾さーに伸
ばちやひ、丸みて、うり竹ぬ先んかいたつち、
うぬ竹さーに取とーいびーたん。

家ぬ前んかい新しく幼稚園ぬ出来とーいびーたん。
家ぬ前ぬ道から左んかい降りて行ちーねー、右む
てなかい、黒砂糖飴小と白砂糖飴小売とーるぐま
まちやぶ一
町屋小ぬあいびーたん。

一銭さーに黒砂糖飴小やれ一、十買らりーしが、白
砂糖飴小やれ一、二ち買らりーくと、じろー益しや
がやーんち、うちーやっちーさるむんやいびーん。

うぬ道なーふん先んか行ちーねー、カタバル町
小ぬあいびーたん。うぬ近くなかい湯風呂屋ぬあて、
どし小と、良ー行じよーいびーたん。

色々思出じゃち、書ちやびたしが、此れ一、我ん
が九ちぬ歳まで、暮らちよーたる十・十空襲前
までぬ松山町近辺ぬ事やいびーん。

(続ちゆん)

会報に出てきた語句の説明

- ・いちむし：けだもの。畜生。虫けら。田舎では、家畜にまで「いちむし」と呼んでいた。
- ・～をて：で。「那覇をて：那覇で。」
- ・まじゆん：一緒(に)、共(に)。
- ・ハブ：奄美・沖縄特産の毒蛇。
- ・んーかじ：むかで。「那覇言葉では、んーかじ、と言うようです。首里や、八重瀬町上田原あたりでは、んかじ、です。動物名や遊びに関する呼び名は、地域によって変わる。」
- ・～さーに：で。「御箸さーに食むん：お箸で食べる。」
- ・～んかい：に。
- ・すぐいん：殴る。たたく。
- ・やーる一：守宮。首里では、やーどー。
- ・まぎさん：大きい。「まぎがじまるぬ木：大きなガジュマルの木。」
- ・田ぶっち一：田んぼ。田のたくさんあるところを言う。首里では、田ぶっち。
- ・ばーき：ざる。かご。
- ・小：小さいことを表し、またその愛称となる。子供の名について、愛称となる。少量であることを表わす。軽蔑の意を表す。分家の意を表すので、広い意味で使われております。
- ・ふじよーすん：回遊する。「那覇言葉」
- ・くしー：後ろ。「家ぬくしー：家の後ろ。」首里では、くし、です。
- ・ちかないん：飼う。
- ・わちやくらりーん：いたずらされる。
- ・あーちきーん：追っかける。「那覇言葉」首里では、あーちきゆん。
- ・たんめー：祖父。おじいさん。
- ・んめー：おばあさん。祖母。
- ・～なかい：に。の中に。存在する場所を表わす。
- ・あー：豚。
- ・ふーじゃー：山羊。
- ・あんすくと：それだから。だから。

- ・い^ち少^い：少し。
- ・ゆ^ーど^ど：よど。よどみ。「ゆ^ーど^どす^ん：長逗留する。」
- ・ば^ーくる[：]大よそ。
- ・空^{から}ふ^いさ[：]はだし。
- ・く^むん[：](履物を)履く。
- ・い^っぱ^ー：たいそう。非常に。たいへん。
- ・風^{ふう}情^じ：風采。なりふり。ようす。
- ・し^っか^ど：しっかと。しっかりと。
- ・び^けん[：]ばかり。
- ・あ^らん^だれ^ー成^ならん[：]そうでなければならない。
- ・う^りか^ら：それから。
- ・ど^ーくる[：]自分で。自分自身で。
- ・む^じゆ^くい[：]農作。農業に従事すること。
- ・暮^くら^し方^が：暮^らし方^が。生計。生活の方法。
- ・あ^んそ^ーる^うち^に：そうしているうちに。そのうちに。
- ・手^て掛^かゆ^ん：手を頼る。
- ・思^うん^ちゃ^きら^ん事^く：思^いが^けぬ^こと。
- ・～^んで^ー：など。
- ・う^ちく^たす^ん：病気で長く床に就く。病臥する。
- ・見^み一^{かん}考^げ一^すん[：]世話する。
- ・日^じ傭^ゆと^り。日^ひ雇^い労働者。
- ・賄^まか^ね一[：]まかない。
- ・種^さに^う降^るす^ん：種を蒔く。
- ・面^ちぬ^まく^い：顔のしわ。
- ・ど^ーぬ^め面[：]自分の顔。
- ・～^がち^ー：ながら。「歩^あち^ゃが^ち一^か食^むん[：]歩きながら食べる。」
- ・～^ね一[：]ように。
- ・肝^ちん^や一^や一^ど：心も静かに。「や^ーや^ーと^な成^ゆん[：]静まる。また、ほっとする。」
- ・み^つふ^{さん}：憎い。憎らしい。
- ・わ^び一^の一^いす^ん：愚痴ばかりを言う。
- ・ち^ゃ一[：]いつも。
- ・ゆ^ちゆ^ち一^ど：ゆうゆうと。ゆったりと。
- ・大^う生^ふまり[：]こせこせしないたち。ゆったりとした性質。
- ・習^{なら}一^し：教育。しつけ。
- ・気^ち掛^がか^い：気掛かり。
- ・め^んし^え一^ん：いらっしゃる。おいでになる。いる・行く・来るの敬語。同等および目上に対して用いる。
- ・持^もち^え一[：]持病。
- ・ど^ー苦^くさん[：]心苦しい。
- ・正^{せい}月^{げつ}一^あ一[：]正月用に屠る豚。
- ・ど^し：友。友だち。仲間。
- ・ち^ね一[：]家庭。家族。
- ・包^ちみ^ひ隠^{かく}す^ん：包み隠す。
- ・ま^ーす[：]塩。
- ・か^たさん[：]固い。濃い。
- ・詮^{しん}：詮。甲斐。効能。ききめ。
- ・は^しっ^ど成^なゆ^ん：元気になる。
- ・ば^ー：よい。「ば^ー薬[：]よい薬。」
- ・や^っど^かつ^ど：やっど。ようやく。
- ・た^まし[：]銘銘の分。持ち分。
- ・筋^{しじ}：筋。条理。
- ・う^さが^ゆん[：]召し上げる。
- ・ふ^ーふ^じ：祖父母。
- ・ふ^どあ^ーゆ^ん：成長する。
- ・に^ー：そば。「親^うぬ^に一^う親^のそば。」
- ・し^から^ーさん[：]さびしい。
- ・ど^ー一^ち人^い：自分一人。
- ・難^{なん}儀^じく^んじ[：]たくさんの難儀。多くの苦勞。
- ・～^か一^じ：つど。度。たびに。
- ・為^し枯^からし[：]経験。
- ・動^うち^ゃ一^ん走^はつ^たい^すん[：]ばたばた動いてじっとしていないことをする。
- ・う^りか^ー：その辺。
- ・ん^じゆ^んじ^ゆ一^ど：うんと強く。「ん^じゆ^んじ^ゆ一^どすぐゆ^ん：うんと強く殴る。」
- ・変^かわ^る一[：]特に。
- ・う^け一^ゆん[：]ためらう。尻込みする。
- ・う^っぴ[：]その大きさ。
- ・も^ーさ^ぎ：告げ口。密告。

- ・まんぐる：ころ。おおよその時を示す。
- ・うんじゆ：あなた。
- ・言^あーしみしえーん：仰せられる。おっしゃる。
- ・手^てじくん：握りこぶし。げんこつ。
- ・面^ちぼーちゆん：びんたを喰らう。
- ・ちび：尻。
- ・物^む習^んーし：家庭での教育。躑躅。
- ・言^いー習^{なら}ーし：躑躅。普段の教育。
- ・あびゆん：叫ぶ。
- ・ゆくーゆくー：よくよく。つくづく。
- ・御^う取^とい^む持ち：おもてなし。ご接待。
- ・しなさき：なさけ。思いやり。又、男女の愛情。
- ・あーんでー：ご奉仕。
- ・ふらゆん：付き合う。交際する。
- ・まーすん：死ぬ。亡くなる。
- ・言^いーどんしえー：言うならば。
- ・ぬざ：芸。演芸。
- ・かげーゆん：支配する。保護する。
- ・ちむえー：意味。わけ。
- ・うじゆみ：はずみ。機会。きっかけ。
- ・笑^わーかんじゆん：にこにこ笑う。
- ・どくつと成^なゆん：気分がすっきりする。気分が落ち着く。
- ・肝^ちじゆりーすん：協力する。
- ・い^くー心地：居心地。すわり心地。
- ・うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。
- ・差^さし^ち支^けー持^むっちょーる^ちっ人：差し支えを持っている人。
- ・い^まーまー：順番に労働交換を行う。
- ・うさぎゆん：押し上げる。ささげる。
- ・小^す路^じ小^ご：小路。露地。横丁。
- ・む^ち：方。方向。方面。側。
- ・やっちー：兄。にいさん。
- ・そーらーしぎさん：しっかりしているような。
- ・い^ゆん：もらう。
- ・たんかー：真向い。正面。

- ・じーなー：蛭。「じんじん：蛭の小児語。」
- ・ちゃーすん：消す。
- ・恐^うる^とさ思^うーすん：恐ろしい思いをする。
- ・ぬばがゆん：ちょっと覗く。
- ・あささー：蝉の一種。
- ・やんむち：鳥もち。
- ・たっ^つーすん：くつつける。
- ・細^くさん：小さい。小型・小粒である。
- ・じる：どれ。
- ・うちーやっちー：どうしようかと迷うこと。
- ・な^ふん：もつと。さらに。

*本文では、語句は活用されているものもあります。ここに示した語句の説明は、終止形となっております。

参考文献

- ・沖縄語辞典「国立国語研究所」
- ・沖縄語辞典 内間直仁・野原三義 編著
- ・Okinawan-English Wordbook Mitsugu Sakihara「University of Hawaii Press」
- ・広辞苑「岩波書店」
- ・新公用文用字用語例集「内閣総理大臣官房総務課監修」

事務局から

沖縄語を話す会が出来てから、本年は30周年を迎えることができました。そして、創立30周年記念パーティーの席で、記念号「第22号」の会報を皆さんへお渡しできるのを大変喜んでおります。

記念パーティーは、八重瀬町出身の方や、八重瀬町を応援して頂ける方々の集い、大崎踊りの会の方々と一緒に会を盛り上げることができ嬉しく思っております。

投稿者は、沖縄は、八重瀬町から、石原末子さん、そして、豊見城市からは、久手堅憲珍さんです。貴重な原稿をいただき感謝しております。

投稿者の皆さん、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

この会報を音読などの教材として使用される方がおられましたら、事務局へ連絡くださいませ。会報を増刷して差し上げたいと思います。

この会報は、「うちなぐち」にご関心があれば、会員以外の方でも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

hasama-kuni@nifty.com tel&fax 044-988-8065

國吉(眞)

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と[tu]	とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と[hwe]	とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と[to]	とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ[he]	へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど[du]	どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や[?jal]*	やー(君、お前) やん(言わない)
ど[dol]	どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や['jal]	やー(家) やん(である)
て[ti]	てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ[?jul]*	ゆん(言う)
て[te]	てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ['jul]	ゆんたく(おしゃべり)
て[di]	ふて(筆) むてー(喉) てきやー(秀才)	よ[?jol]*	よーいー(おさな子)
で[del]	でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ['jol]	よーんなー(ゆっくり)
ふ[kwal]	ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ[?wa]*	あー(豚) あーちち(天気)
か[ka]	かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ['wa]	わーむん(私のもの)
ふ[gwal]	にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ[?wi]*	あー(上) あーりきさん(面白い)
が[ga]	がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	あ['wi]	あきが(男) あなく(女)
く[kwil]	くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	あ[?we]*	あーきー(金持ち) あんちゆ(ねずみ)
き[ki]	きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	あ['we]	ういあー(お祝) わじゃあー(災い)
ぐ[gwi]	ぐーく(越来「地名」)	ん[?N]*	んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ[gi]	かーぎ(容ぼう)	ん['N]	んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く[kwe]	くー(鋤) からじくー(髪きり虫)	い['i]*	いん(縁) いだ(枝)
け[ke]	けー(かゆ) ちけー(使者)	い[?i]	いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
ぐ[gwe]	ぐったい(ぬかるみ)	を['u]*	をと(夫) をーじ(さとうきび)
げ[ge]	げー(害) にげー(願い)	う[?u]	うと(音) うーび(帯)
ふ[hwal]	ふー(葉) なーふ(那覇)	え['e]*	えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は[ha]	はる(畑) はぎもー(荒地)	え[?e]	えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ[hwil]	ふじゃい(左) ふーと(いるか)	お[?ol]	おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ[hi]	ひやみかすん(えい、と言う)	を['ol]	をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示す。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)